

ヘビノボラス *Berberis sieboldii* Miq.

【選定理由】

個体数階級 1、集団数階級 1、生育環境階級 4、人為圧階級 2、固有度階級 3。本地域の湧水湿地を特徴づける準固有種である。

【形態】

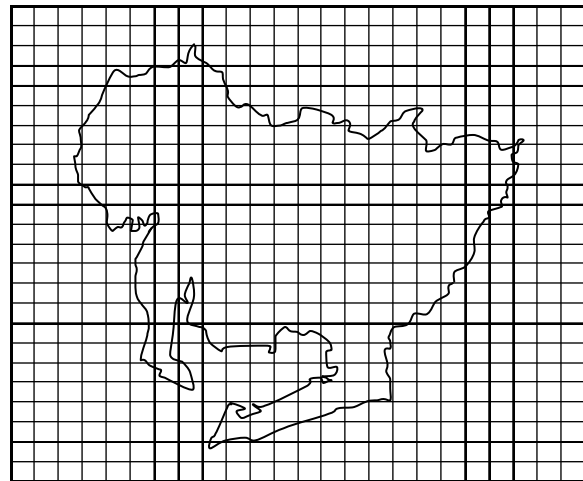
小形の落葉性低木。茎は細く、直立して多少分枝し、高さ 80cm くらいになり、鋭い刺針がある。刺針は長さ 5～15mm で、多くは基部で 3 分枝する。葉は倒卵形または倒披針形、長さ 3～9cm、幅 1～2cm、先端は鋭頭またはやや鈍頭、辺縁には先が刺状になった細かい鋸歯がある。花期は 4～5 月、短枝の先から垂れ下がる総状花序を出し、数個の黄色の花をつける。花序はふつつ葉よりも短い。果実は赤く熟し、球形～やや楕円形、長さ約 6mm である。

【分布の概要】

【県内の分布】

田原赤羽根(芹沢 55011)、渥美(芹沢 58203)、足助(日比野修 3804)、小原(日比野修 2684)、藤岡(日比野修 1460)、豊田東部(芹沢 75405)、豊田北西部(畑佐武司 1679)、岡崎南部(芹沢 69088)、幸田(芹沢 58194)、西尾(芹沢 54129)、瀬戸尾張旭(芹沢 80568)、犬山(芹沢 69241)、小牧(日比野修 4911)、春日井(山田果与乃 469)、名古屋北部(芹沢 51066)、作手(東田原, 鳥居喜一 5808, 1982-5-27, HNSM)と豊橋南部(大清水, 恒川敏雄 s.n.=鳥居 14608, 採集日不明, HNSM)で採集された標本もある。シデコブシと同じような分布をしており、豊橋北部では発見されておらず、知多半島にもない。作手はこのあたりという場所を教えてもらったが、確認できなかった。

要配慮地区図



【国内の分布】

本州(東海地方西部、近畿地方)九州(宮崎県)に分布する。

【世界の分布】

日本固有種。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域				

【生育地の環境 / 生態的特性】

湧水湿地周辺の林縁や疎林内に生育する。

【現在の生育状況 / 減少の要因】

現在のところはまだ生育地も個体数も多いが、丘陵地に生育しているだけに開発の影響を受けやすく、次第に減少している。湿地周辺の森林化に伴う被陰によっても衰退している。

【保全上の留意点】

愛知県のやせた丘陵地に点在する湧水湿地は、この地域を特徴づける植物が集中して生育しており、絶滅危惧種も多く、優先して保全すべき場所である。湧水湿地の保全のためには、湿地本体だけでなく、湧水を涵養する水源部の地形をあわせて保全する必要がある。

【特記事項】

鋭い針があってヘビも登れないというので、ヘビノボラスという。しかし、時には刺針がほとんどないものもある。葉の裏は普通緑色であるが、帯白色のものもある。彩色画はレッドデータブックあいち 2001 植物編 図版 3 に掲載されている。

【関連文献】

保木 p.174、平木 p.129、SOS 旧版 p.51 + 図版 18。